



農業知識広場

農へのこだわり

〜知っててよかった〜

伊藤文弘 指導員



芸北エリアを担当して、もうすぐ2年になります。地域の生産者にとってオンリーワンの存在となれるよう日々の営農指導に努めていきます。

『身近な省力化技術紹介』

農作業は、すればするほど作業が増えていきます。その多くを手作業で行うことは肉体的負担も大きく、作業の省力化を考えていく必要があります。大半の作業は機械化や農薬等の利用をすることで省力化できますが、全てを農業機械や農薬で対処するとコストが大きくなってしまいます。今回はあまりコストの掛からない省力化技術の紹介をします。

病害虫対策

●アブラムシ

吸汁することで野菜を弱らせ、排泄物で汚すなどの被害があります。吸汁によるウイルス感染で被害が拡大することも問題とされる害虫です。乾燥した条件が好きな虫で、水を嫌うことから、日光を反射するような資材を使うと、水の反射と勘違いし、飛翔による発生を軽減させることが可能です。一般的にはシルバーマルチや銀色の糸を織りこんだネットなどの資材を使います。また、アブラムシは黄色が好きなので、対象野菜のそばに黄色の粘着テープを設置することでそちらに誘引させる方法があります。

●ナメクジ

葉を食害し、穴を開ける害虫です。アルコール、特にビールの匂いが好きなので、コップなどに入れたビールを地中に埋め込み、誘引し溺死させる方法や、銅を嫌うことから銅線や銅板を設置し寄せつけないようにする方法があります。

●ハモグリバエ

葉の中を食害し絵を描いたように見える事から絵描き虫とも呼ばれます。マメ科野菜などで被害が大きい害虫ですが、幼虫が葉の内部で大きくなり、さなぎに

なる際に、葉から出て土中へ潜り込んで羽化する種類のものがいます。土中に潜ることを阻止することで、成虫になるのを阻止できるので、マメ科野菜などを栽培するときにはマルチなどで株元にふたをすると、ハモグリバエの被害を軽減させることができます。

●土壌病害

マルチは土の泥跳ねを軽減させることができます。土には様々な病原菌が潜んでいますので、泥跳ねを防ぐことは病気の発生を軽減させる有効な手段となります。

雑草対策

雑草の抑制に有用なのは、やはりマルチになります。黒マルチやシルバーマルチ、白黒マルチなどがありますが種類によって地温の上昇効果が異なるので、時期に合わせて使い分けも必要です。またもみ殻や稲わら、堆肥など有機質資材を使ってマルチ代わりにもする方法もあります。栽培終了後にそのまますき込むことで、畑の地

力増進もできますが、一度にたくさん量を使いすぎると逆に野菜の生育が鈍ったりモグラなどの害がでたりすることもありますので注意が必要です。

その他省力化技術

ミズナや小松菜、ハクサイやエダマメなど、苗を作って定植する野菜は、「定植」という重労働が待っています。立ったたりしゃがんだりの動作を繰り返すことは、足腰に大きな負担をかけることになりませんが、立ったまま苗を定植できる簡易定植機「ひっぱりくん」という道具がありますので、定植作業の軽減を図りたい方は、各地域の営農指導員が最寄りの営農事務所までご相談ください。



今月の農作業

●温度管理に注意

ダイコンやニンジンなどの播種が始まります。トンネルなどを作って温度を高めることで、安定した発芽や生育を促しますが日中、急激に温度が高まることがあるので、換気するなど温度管理に気を付けましょう。